



ジュニパーネットワークス SSG 550

報道・出版



日本インターネット新聞株式会社

東京都千代田区麹町2-3
麹町ガーデンビル9B
<http://www.janjan.jp/>

日本インターネット新聞株式会社は2002年に設立され、市民メディア「JanJan」を発行・運営している。JanJanには、約4500人におよぶ「市民記者」によって投稿された記事が毎日20～30本程度公開されている。速報性を重視する一般の報道機関とは異なり、生活に密着したユニークな視点の記事が多いのが特徴。同社ではJanJanのほかに、全国の政治家と選挙の情報を集約した「ザ・選挙」、政治資金収支報告書を検索できる「政治資金データベース」を運営する。



日本インターネット新聞株式会社
取締役
山本 千晶氏



富士ソフト株式会社
映像事業部デジタル映像部
リーダー
衣川 卓磨氏

日本で初めての本格的な市民メディアとして誕生した日本インターネット新聞株式会社の「JanJan」。1日20万ページビューを超えるアクセス数のある同社のネットワークは、“メディア”という性格上、さまざまなセキュリティ上の脅威に常に晒されています。そうした脅威からネットワークを守っているのが、ジュニパーネットワークスの統合型セキュリティプラットフォーム「セキュア・サービス・ゲートウェイ (SSG) 500シリーズ」です。

■市民の市民による 市民のためのメディア

インターネット新聞「JanJan」は、日本で初めての本格的な市民メディアとして2003年2月に創刊しました。市民メディアとは、一般の市民が記事を取材・執筆する記者としてボランティア活動をするメディアであり、「市民記者コード」と呼ばれる規約を守ることで誰でも市民記者になれるという特徴があります。市民メディアと言えば、韓国の「オーマイニュース」が世界的に有名ですが、JanJanもオーマイニュースをモデルにしたそうです。

「当社の代表取締役（竹内謙氏）は、もともと朝日新聞の記者から鎌倉市長を2期勤めた経歴があります。その鎌倉市長時代に、限られた新聞社・報道機関だけの記者クラブ制度を問題視し、登録したメディアならば誰でも受け入れるメディアセンターへと変えました。その記者クラブ制度改革が評価され、韓国に招かれて話をした際にオーマイニュースの詳細を知り、非常に感銘を受けたそうです。そこで日本でも市民メディアが必要だということで立ち上げたのが、JanJanでした」（山本氏）

登録されている市民記者は、約4500名（2007年5月現在）。日本全国はもとより、世界各国から配信されてくる記事を編集部のデスクが確認し、1日20～30本を掲載しています。

「インターネット新聞には速報性というイメージがありますが、JanJanでは市民なら

ではのユニークな視点、マスコミが報道しない視点を重視しており、速さにはこだわってはいません。読者は中高年層が比較的多く、誹謗中傷が少なく、安心して読めるという好評をいただいています」（山本氏）

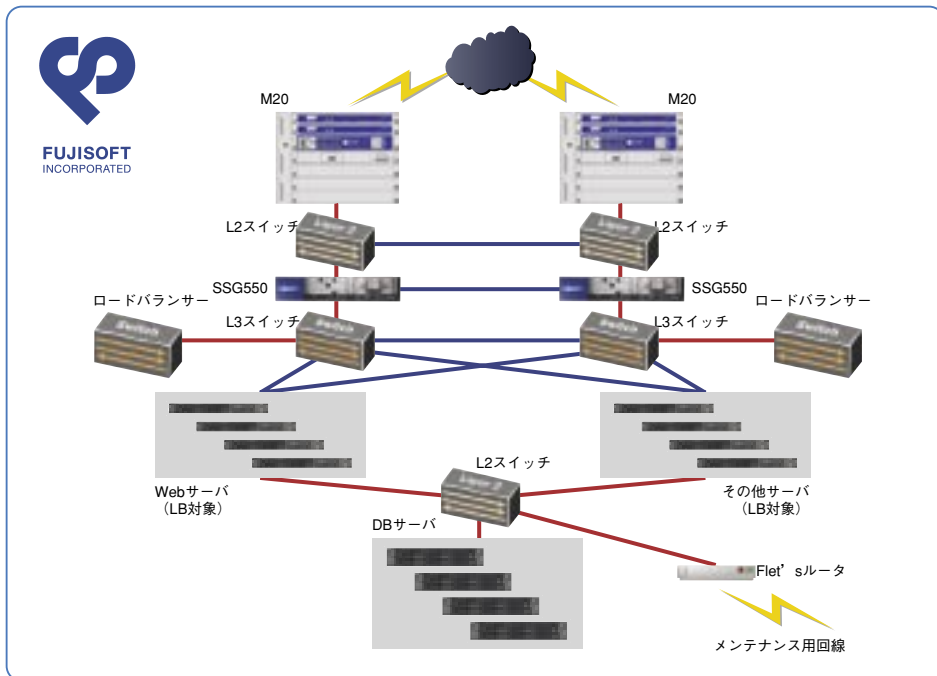
日本インターネット新聞では、JanJanのほかに全国5万人の政治家情報、および選挙情報を網羅した「ザ・選挙」、政治資金の実態を解明・監視し、“政治とカネ”の問題を考える「政治資金データベース」などの取り組みも行っています。

■アクセス増への対応で システムを根本的に見直し

現在、JanJanをはじめ、日本インターネット新聞が運営するインターネットサイトを含むシステムは、富士ソフトが運用・管理を行っています。市民メディアへの関心が高まるにつれ、アクセス数も順調に増えており、現在はJanJanだけでも1日約20万ページビューのアクセス数があるそうです。

そうしたアクセス数の急増に対し、創刊以来利用してきたサーバやネットワークではキャパシティに限界が近づいてきました。そこで日本インターネット新聞と富士ソフトでは、2006年4月にシステムの再構築に着手しました。

「富士ソフトは、日本インターネット新聞が設立された当初からシステムの運用・管理を担当しています。JanJanに加え、ザ・選挙や政治資金データベースなどのコンテンツが拡充してページビューが増えたことで、創



刊当時からシステムでは処理能力が追いつかなくなり、システム自体を根本的に見直すことにしました。新しいシステムは、日本インターネット新聞社から年間3億ページビューをこなせるものという依頼があり、その要件に合致するネットワークとハードウェアの構成を富士ソフトが設計しました」（衣川氏）

そのシステムのゲートウェイに置くセキュリティ装置として採用されたのが、ジュニパーネットワークスの「SSG 550」でした。

「富士ソフトでは、ほかのシステムでもジュニパー製品を数多く採用してきた実績があります。今回のシステムでは、データセンターとインターネット相互接続を行うIX（インターネットエクスチェンジ）を接続するルータにもジュニパーのM20を利用しています。そうしたことから、扱いに慣れ、使いやすいジュニパー製品の導入は、最初から決めていました」（衣川氏）

ジュニパー製品の中でも、SSG 550に機種選定をしたのは、ファイアウォール機能に加えて、攻撃防御機能が充実していたためだったと言います。

「従来のシステムは攻撃を頻繁に受けていたため、ファイアウォール側で攻撃を防ぐことができないかと検討していました。SSG 550

は攻撃を防御するディープインスペクション機能が搭載されているのに加え、導入コストも比較的安価です。それらを考慮してSSG 550の導入を決定しました」（衣川氏）

■性能と使い勝手で高い評価

日本インターネット新聞社の新しいシステムで稼働するSSG 550は、2006年7月から実稼働を開始しました。設置はデータセンター側ではなく、IX側にアクティブ/アクティブの冗長化構成にしたそうです。これにより、富士ソフトのデータセンターにあるWebサーバに攻撃の手が届くことがなくなりました。

「従来のシステムでは、一般的なファイアウォール機能を設置してただけで、サーバに対する攻撃検知はまったく行っていませんでした。攻撃がそのまま通ってしまうほど脆弱なもので、実際にサーバに侵入されたこともありました。それがSSG 550を導入して、簡易版侵入検知防御（IPS）機能のディープインスペクションを稼働させてから、サーバへの不正アクセスやアプリケーションレベルの攻撃をブロックできるようになりました」（衣川氏）

衣川氏によると、SSG 550を導入したことによる効果は満足できるものだったと言います。

「性能面の問題は、まったくありません。

たとえば、2007年4月の統一地方選挙では、1日で400万ページビューという非常にアクセスが多い日もありましたが、パフォーマンスを損なうことはありませんでした。遅延はWebサーバが原因の遅れは若干ありますが、SSG 550に起因するものではありません」（衣川氏）

使い勝手も満足できると言います。

「私自身、今回のシステムでジュニパー製品を初めて使いましたが、マニュアルを読まなくてもある程度設定できるなど、ユーザーインターフェイスが非常に使いやすいと感じました」（衣川氏）

■更なるレイヤー7の防御機能に期待

SSG 550には、ファイアウォール機能以外にも、簡易版侵入検知防御（IPS）機能のディープインスペクション、アンチウイルス、アンチスパム、コンテンツフィルタリング、VPNなどさまざまな機能を追加することが可能です。今回、日本インターネット新聞では、ファイアウォール機能とディープインスペクション機能を利用しています。

「今回はファイアウォール機能に加えてサーバへの攻撃を防御するためにディープインスペクション機能を使用しています。これによりこれまで防げなかったサーバへのレイヤー7レベルの攻撃を検知して防御することができました。今のシステムで欲しいと考えているのは、更なるレイヤー7レベルの攻撃を防御できる機能を拡充してほしいです」（衣川氏）



SSG 550が攻撃や不正アクセスから防御しているインターネット新聞「JanJan」のサイト



ジュニパーネットワークス株式会社

東京本社
〒163-1035 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー N棟35階
電話：03-5321-2600 FAX：03-5321-2700
西日本事務所
〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 1-1-27 デ・リード北浜ビル7階
<http://www.juniper.co.jp> <http://www.juniper.net>